

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

#せんせいふやそう

このままでは学校がもたない！教育予算を増やし、教育条件整備を！



思いを訴えながらのパレードに
注目が集まりました

各地の発言の中には、「小中一貫教育」について地元議員と懇談したこと、学校統廃合について町議会で注目を集めたこと、児童館（子どもの居場所）づくりについて、保護者が教科書採択までの経緯に関心を持って身近な人たちから意見を集めたことなど、地域ごとの課題に対する取り組みを交流しました。全国各地で様々な課題がある中でも、学校の当事者である子ども・保護者・地域・教職員

「せんせいふやそう」の声をひろげよう

10月5日(土) 東京八重洲にて、全教・教組共闘連絡会主催「教育大運動1741」なるフェス feat. このままでは学校がもたない！が開催されました。全国から多くの参加者が集まり、子どもと教育について各都道府県から発言交流しました。大障教からは、寝屋川支援分会の樋口さん、矢野さんが参加しました。集会では、会場と全国各地をオンラインでつなぎ、参加者から各地のとりくみが報告されました。そのあと、「銀座パレード」が行われました。大阪でもサテライト会場を設け、集会後は上本町駅前で、宣伝をおこないました。

が話し合う場をこれからも大切にしていくことが必要なのではないかという投げかけがありました。交流の後は、参加者全員でパレードを行いました。銀座を通り、日比谷公園までの道のりを「子どもと関わる時間がほしい」「先生を増やして欲しい」とシネプレビューしながら進みました。私たち教職員が求めるものは何か、自分の生活も子どもも、みんなが大切にされる学校づくりをしていきたいという思いをみんなが声をあげて訴えかけました。動画や写真を手軽に撮れる時代、「SNSで拡散してください」の言葉にたくさん注目が集まりました。今年「子どもの権利条約」批准から30年目の節目にあたります。未来を担う子どもたちのためにも、広く共同し、誰もが過ごしやすいよい環境を作っていきましょう。

問題だらけの中教審答申！

8月27日、中央教育審議会は「『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について」を答申しました。「審議のまとめ」にわずかな修正を加えた内容で、極めて問題のある内容です。答申の主な問題点として、教職員定数増について基礎定数改善を先送りして、加配定数の改善にとどめ、教育予算の大幅増を求めませんでした。最も優先されるべきは、標準法改正による基礎定数の改善です。また、教職調整額を支給する給特法の仕組みは今もなお合理性があると述べ、長時間労働の法的な歯止めとなる残業代支給のしくみを否定しました。教職調整額の引き上げだけでは、「定額働かせ放題」はそのままで、根本的な解決にはなりません。2025年度文科省概算要求では、「中教審答申」が具体化されていますが、全体を見ると文科省の文教関係予算は、4兆3883億円で、防衛関連予算は2倍の額になっています。今、必要なことは、教育予算を増やすことです。また、給特法改定案は来年1月開会の通常国会に提出されま

参加者の感想

学校教育の課題は全国共通であり、課題解決に向けて、組合員や教職員だけではなく、保護者や地域住民にも広がっている現状です。中には子どもたちが声をあげて署名活動をして、自治体を動かした地域があることをこのフェスで知りました。「せんせいふやして！」という声を実現してほしいです。

矢野 千江里
(寝屋川支援分会)



大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の つうしん

今年8月、府教委は大正白樺高(大阪市・大正区)、福泉高(堺市)の2校の府立高を2026年度から募集停止する案を公表した。2014年以降、維新府政のもとで21の府立高が廃校になっている。「大阪府立学校条例」の「3年連続定員に満たなければ再編整備」が理由だ。

筆者は50年以上、大正区に在住している。泉尾高・大正高・泉尾工業の3校は、「地元の高校」だった。姉は泉尾高出身。四閉が運河に囲まれた大正区。3校へは渡し舟を使って自転車で気軽に通えるため、筆者の同級生の多くも「地元の高校」に進学した。

2018年に泉尾高・大正高の統廃合によって、大正高は廃校となり、泉尾高の校地に大正白樺高が新設された。大正高閉校メモリアルサイトには、「大正白樺高校が地域に根ざした学校として、さらに発展することを何よりも願っている」という言葉がある。その開校からわずか6年目の廃校発表。同区の泉尾工業はすでに2028年に廃校が決定しているため、今回の募集停止案が決定されれば、大正区から高校がなくなる。

子どもたちはどう受け止めているのだろう。今夏、大阪で開催された「全国教研」で記念講演を行った齊加尚代さん(毎日放送プロデューサー)は、2012年、府立高校つぶしの現場を取材していた。経済的に困難な家庭に育つある生徒は、高校生活に居場所を見つけ、文化祭の成功のため懸命に頑張っていた。その最中、耳に届いた「廃校」。その生徒は齊加さんに真っすぐこう問いかけた。「オレたちの学校いらなくなって」とは、オレらもいらんということやろと。

この生徒の言葉は、大阪の高校つぶしの本質を言い当てている。「3年連続定員割れ」という市場ルールによって学校を淘汰することが、どれほど罪深いことか。大阪の教育政策決定者は思い知るべきだろう。「地元の学校を守れ」の声を上げよう。(S)



集まれば元気!

大障教女性部総会



7月6日、たかつガーデンにて女性部総会が行われました。今回から委任状が導入されました。会場とオンライン合



各分会から
たくさんの発言がありました

わけて参加者から多様な発言があり、会場は活気にあふれました。

オープニング、荒谷書記長の挨拶、女性部長挨拶、役員からの報告と今年度の方針の提案後、討論となりました。代表的な発言を紹介します。

前倒し任用が昨年度から始まり、男性が年度末まで育休を取得する場合にも適用されますが、管理職の理解不足から認められなかった例や、職員室に本務者と講師で机が一人分しかなかった例がありました。出生サポート休暇は内容が不十分ながらも歓迎されています。しかし、多忙を極める職場では休暇を取らなくても取れない実情があります。さらに人員不足がほとんどの学校で大きな問題となっています。代替講師が1人くらい来なくてもあたりまえ、マンパワーでなんとかしろ!と言われることも。人員不足

青年部活動が明日への力に!

大障教青年部総会



になると職場全体に負担がかかり、体調を壊す人が次々と出ます。学校の「過大・過密」も深刻です。小学部で児童10人を3人で担任、児童生徒の増加で校区がいびつに変更される、教室不足で小学部がプレハブ校舎を使っているの

にそのエアコンが故障した、などの報告もありました。男性が育休を取得する場合、赤ちゃんの出生後にしか代替講師を探せず、欠員になる可能性が高いこと、短期間雇用の講師の身分保障、短時間勤務のSSC入力をもっと柔軟

にできないかなど、制度はあっても、その運用で疑問に感じることが挙げられました。今年から部分休業と年休が併用可能になりましたが、管理職が対象者に知らせていなかった(システム上でできない、部分休業を年休にすれば減給されないからよいだろう、と管理職が勝手に解釈していた)という発言もあり、アンケートには「権利について学習することが大切」という感想が多くありました。

「短期介護休暇の日数を増やす」については、今後交渉で訴えていきます。各分会では女性部活動費を利用して交流が行われたり、少しほつりできる時間を作ったりしているという報告がありました。「二人の小さな手何もできないけど、それでもみんなの手と手を合わせれば、何かできる」：オープニングで歌った歌詞が実感できる、「集まれば元気」のもらえる女性部総会でした。(女性部 荒木 佳子)

7月6日に青年部総会が開催されました。各現場で忙しい日々が続いていること、青年教職員が参加しやすい形をつくっていくということ、オンラインを併用する形で行ないました。各分会でのお声かけやご協力により、無事成立することができました。ありがとうございました。



オンライン併用で
交流しました

まず議案書提案ということ、昨年度のとりくみの報告や今年度のとりくみの紹介などをしました。昨年度は新型コロナウイルス感染症が第五類になったとはいえ、オンラインも併用しながら青年部活動

に直面している現状について話題提起を行いました。その後の議論も踏まえて、子どもたちが安心・安全に過ごせるように何ができるのかを考えていきたいと感じました。参加された方からの近況報告や交流では、学校現場の深刻な現状が話され、それでも子どもたちのために奮闘されている話を共有しました。参加者からは「各校の実情など新たに知れることも多く、充実した時間になりました!」「各校の状況や様子を知れたら、青年部での活動を聞いたりすることで、明日への力に

組合~私の安心できる場所~

交野支援四條畷校分会 林志保さん



教員になりたての頃、当時の部主事の先生の「学校は社会の縮図じゃないとあかん、だから教員も色んな人間がいないとあかん」という言葉に猛烈に感動しました。「授業うまくいかないなあ」「生徒理解難しいなあ」と壁にぶつかるたびに「頼りなくて悩める教師に救われる生徒もいてくれるはず」とポジティブに解釈してここまで来られたように思います。生徒に対するのと同様に保護者、同僚、自分にも寄り添うことがモットーであり、そんな私が安心できる場所の一つが組合です。校内での集まりだけでなく、ふと悩んだ時に放課後の廊下で立ち話かてら相談しあったり…心強く暖かい仲間がいます。迷っている人もそうでない人もぜひ扉を開けてみてください。語り合える仲間に出会えると思いますよ。待っています!

まず議案書提案ということ、昨年度のとりくみの報告や今年度のとりくみの紹介などをしました。昨年度は新型コロナウイルス感染症が第五類になったとはいえ、オンラインも併用しながら青年部活動

を進めるなど、誰もが安心して参加できるようにと工夫しました。発達の学習会だけでなく、戦争体験を聞く学習会を女性部と共催で行ったり、ハイキングやキャンプなども開催するなどして交流を深めることができました。

議案書では、万博・カジノに関する問題や、長時間労働、「過大・過密」問題など現実

「各校の状況や様子を知れたら、青年部での活動を聞いたりすることで、明日への力に